

# 光永 勇 × スペシャル対談

話題の政治家に聞く!!



2015年7月3日、国政参画25周年を迎えた河村予算委員長と全国勝手連連合会・光永会長が沖縄問題について協議する

## 現 衆議院議員 決算委員 河村建夫

●期日：2014年6月12日 ●場所：自民党本部

日本再生のポイントは経済と教育。勝手連はオピニオンリーダーとして意見をまとめ社会に影響を与えていく事を誓いました。

■光永 自民党が一番重要としている政策、あるいは、これから行おうとしている取り組みを、この機会に是非ともお聞かせ下さい。

### 自民党の柱は 日本の景気を良くする事

■河村 自民党は、経済の再生と教育の再生の二本を重要視して取り組んでいます。

さらに、日本の安全保障体制の構築も重要視しています。集団安全保障の議論が盛んに行われているのは、そのような事です。日本の危機管理に関しては、大震災が発生して甚大な被害を受けた事もあり、国土の強靱化を行い、安全安心な国づくりが重要であると考えます。

国土強靱化の基本目標としては、「人命の保護が最大限図られること」「国家及び社会の重要な機能が致命的な



2016年10月、光永勇・全国勝手連連合会会長に日本を元気にするためのご指導を頂いている河村代議士

障害を受けず維持されること」「国民の財産及び公共施設に係わる被害の最小化」「迅速な復旧復興」があげられます。対策を講じる際には、災害時などに防災・減災等の効果を発揮するだけではなく、景観への配慮や地域での利用など平常時においても活用できるような工夫する事も大切であると考えます。

自民党の政策目標は、日本の景気を良くするという事です。「瑞穂の国」の資本主義は、開かれた市場における自由な競争と長期的な国内投資によるダイナミックな経済活動を創出すると共に、勤勉を尊び、道義を守る事です。頑張る方々に、広く成長の果実



2014年1月17日、沖縄名護市市長選に駆けつけた河村建夫代議士(右)と全国勝手連・連合会の光永勇会長(中央)上野玄津副会長(左)

## 徐々に沖縄の負担を軽くしていくしかない

高齢化が進み、日本の財政は一層厳しい状況になっていきますので、消費税もお願ひしながら、社会保障に絞って実施してまいります。

国づくりは人づくりです。教育は、国家の基本。将来を担う子供たちは日本の宝です。教育再生を断行し、世界トップレベルの学力と規範意識、歴史や文化を尊ぶ心を持つ子供たちを育てていく。教育再生に力を入れようという事です。

■光永 沖縄に対して、テコ入れがなされたようですが。

■河村 この度、沖縄には莫大な予算をつけました。それは沖縄の負担の下で日本の安全保障が行われているという意識を持って、それに応えていかなければならないと考えているからです。基地負担の軽減、そして、これまでの自民党の沖縄に対する政策の評価を受ける事となる、次なる知事選挙に關しても、私が自民党の選挙対策委員長として戦います。

特に、沖縄の基地問題は、日米安保に大きく影響するので重要視しています。一度に基地を沖縄県外に持つていけば良いのですが、それはできません。徐々に負担を軽くしていくしかないのです。

■光永 全体としては普天間が移設する、というのが大きな基地公害の低減につながります。辺野古は、人口の集中している南部・中部から距離があり公害の低減に結びつきます。

■河村 辺野古移設の提案は沖縄トータルで見たらメリットのある提案だと思えます。沖縄県民の気持ちを考えて、鳩山民主党政権時代に「最低でも県外」と県外移設を期待させる発言を行ったので、県外移設を望む気持ちは分かります。しかし、それは簡単にはできません。

■光永 当時、民主党は政権政党でしたから、県外移設ができることを期待してしまっただけです。

■河村 今回の沖縄県知事選挙は、みんなで協議して決めていきたいですね。沖縄県民の基地に対する気持ち

を受け止めながら、一歩前進、トータルで総合的に見ていただければと思っています。今の知事で戦うのであれば、今の知事で勝てる方法を考えなければいけません。知事選まで時間はありません。一度、政権交代で沖縄県民の心が折れました。国会議員は選挙対策上の発言とは別に、国策で動いてくれば、市議会議員となると、そうはいきません。基地がイヤだと言われれば、それまでです。沖縄発展のため、是非この問題を真剣に考えて欲しいです。

## 勝手連は、多様な国民の意見をまとめるオピニオンリーダー

■光永 勝手連が44周年を迎える事になりました。先生から、ひと言メッセージをいただけると嬉しく思います。

■河村 様々な国民の意見をまとめる、オピニオンリーダーとして頑張ってもらいたいと大変な敬意を持っています。若い方にも参加してもらって、日本の方向が間違わないように50年、100年と伸ばすように、引張って欲しいです。

■光永 議会新聞社も今年で50周年になります。小さな新聞ですが、尖閣の問題も議会新聞が一番最初に取り上げました。日本地方新聞協

会というものを組織し、ネットワークを広げ、地方新聞をつなげていく場も創ってまいりました。

## 地方新聞は地域の問題を的確につかんでいる

■光永 今後、地方新聞に期待される事、役割をどのように考えられていますか？

■河村 地方新聞は、地域の問題を的確につかんでいます。そこからでる声、世論を動かしていく事があります。特に勝手連の光永会長のご出身である沖縄は、これから発展する地域です。その声、地方新聞や、勝手連ネットワークでもっと広がってほしいと思います。グローバルに世界的な視野で考えながら、行動する時は「グローバル」に地域を考えて行動していく事が大事です。そういう役割を地方新聞や光永会長の議会新聞が果たしていただければ良いと思います。

### 河村建夫(かわむら たけお)プロフィール

1942年山口県生まれ。山口県立萩高等学校を経て、慶應義塾大学商学部を卒業後、1967年に西部石油に入社。

1976年に父である河村定一氏の死去に伴う山口県議会議員補欠選挙に出馬して初当選を果たす。

1990年、衆院選に旧山口1区から出馬し、当選。山口県議会議員4期、衆議院議員連続9回当選。

自民党選挙対策委員長、文部科学大臣、内閣官房長官、拉致問題担当大臣等を歴任  
衆議院懲罰委員長、  
自由民主党政務調査会宇宙・海洋開発特別委員長、  
自由民主党選挙対策本部長、選挙対策本部事務局長、  
自由民主党文部科学大臣、内閣官房長官、拉致問題担当大臣を歴任  
自由民主党所属の衆議院議員、  
現、衆議院議員 決算委員